

## 収益部門（レストハウス）事業報告

### 概況

令和元年度は、三陸鉄道の一貫運行やラグビーワールドカップなどの観光施策が効じて、当館を含む観光関連施設の利用客増加に大きな要因となった。

しかし、10月に台風19号が発生し、当施設は被害を免れたものの、園地内道路の地すべりにより交互通行となっており、各地域にも甚大な被害を及ぼした。

当館の被害状況を精査したところ、ツアー客数が約△3000名、被害総額は△800万円が推定結果となった。

また、コロナウイルスの感染拡大の影響で「宮古毛ガニ祭り」が中止となり、イベント分で手配した毛ガニ（約2500杯）を全て抱えることとなった。

そこで、かけあしの会と合同でいわて生協に出店企画を提案し、「出張 宮古毛ガニ祭り」と銘打って、「ベルフ北上」、「コープアテルイ（奥州市）」、「フェザン盛岡」の3店舗で実施した。

その他にも、以前から地域間連携において物産交流を続けてきた秋田県の（一社）大仙市観光物産協会と合同で大仙市内の企業や行政団体に向けたカタログ販売や黒石市の「松の湯交流館」にて販売イベントを企画するなど、多角的な販売チャネルを開拓し、過剰在庫の経年変化による品質低下や値下げ販売、廃棄などのリスク対策を講じることなく、毛ガニの完売を達成することができ、宮古を代表する特産品として「宮古の毛ガニ」のPR強化する新たな方策を得ることができた。

収益の推移として、台風被害の影響から甚大な被害を受け大変厳しい状況だったが、目標に掲げた120,000,000円に対して売上実績は約138,000,000円となり、経費管理の徹底等から、最終的な税引後約269万円の当期利益を計上することができた。